

令和5年度 坂本小学校教育評価書

評価の基準 (A:よくできてた・目標を上回る達成 B:できた・目標を達成またはおおむね達成 C:あまりできなかった・目標を達成せず D:まったくできなかった・目標を大きく達成せず)

項目	評価の観点	自己評価	取組・成果または課題	関係者評価	提言等	今後の学校改善に向けて	関連するSDGsの目標(参考)
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級でみんなが仲良く過ごすために、学級の児童らに声をかけどうしていいかを話し合うように心がけている。クラスで起きた問題は個人の問題ではなく、クラスみんなで考えていくことにしている。またコミュニケーションが積極的になれるように機会を設け、特定の友だち以外とも仲良くできるように働きかけている。</li> <li>・学年全体で日常的にどんな些細なことでも報告・共有したり、足並みをそろえ、必要な指導を行ったりすることで、よりよい学年集団づくりに努めている。</li> <li>・昨年度より全学年に導入されたタブレットは、全学年で様々な学習場面で使用している。また、コミュニケーションツールとしても活用し、話し合いの中でお互いの意見をまとめていくのに使用したり、お互いのアプリ上のノートを見合ったりしている。今後も実践を重ね、より効果的な活用の仕方を模索していく。</li> <li>・朝読書時間だけでなく、机や袋に常に本を入れておき、隙間の時間にも読書することを勧めている。また貸出数の多い児童や学級を紹介し、読書への意欲付けに結び付けている。まだまだ読書をする児童に偏りが見られるが、どの子も本に親しむ取組を考えていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの様子を見て、寺子屋教室の時と比べて集中力がないように感じた。やりたい課題なら頑張れるのか。自分たちの思いで進める学習を児童は欲しているのでは。</li> <li>・子どもたちの興味関心や生き生きしている姿をどう評価していくか。</li> <li>・学校で取り組んでいること(授業スタイル)をもっと発信すべき。</li> <li>・体験的な学習をもっと増やしてほしい。(保護者も参加できるものも)例えば、坂本のことをもっと知れるもの、自分で考える力を身につけられるもの。</li> <li>・学校では、読書を推進する取組ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、「主体的・対話的で深い学びを追求する」研究を進めている。子どもたちが主体的に学ぼうとする学習課題を設定し、まずは自分で考え、考えたことを友だちと伝え合う活動を大事にして学習を仕組んでいる。</li> <li>・全員で授業改善に努めることで、子どもたちが自然に話し合いながら学習を進める姿を今後も目指していく。</li> <li>・体験活動は、子どもたちに考える力や人と協力する力等、成長により影響を与えると再認識できた。今後も「子どもたちにとって大事なことは何か」を考え、体験活動を仕組んでいきたい。</li> </ul>	
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	B					
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	B					
	4 読書活動の取組	B					
	5 体験活動の取組	B					
道徳教育の充実	6 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の授業や学級で指導していることを学級通信に記載している。年間を通じて複数回発信できるようにしていきたい。</li> <li>・道徳で学んだことを、普段の学校生活と関連付けながら指導することで、道徳的実践力を育てる活動の実施に努めている。今後も目の前の子どもたちの実態に合わせた教材研究を進めていくことが必要である。</li> <li>・道徳参観を通して、普段の学習の様子を発信することができた。児童が他者の意見に関心を持ち、対話が生まれるように学習を仕組んでいる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の評価では、保護者と児童の差が大きい。学校では、挨拶を頑張っているように思う。</li> <li>・児童には心に余裕のある生活をしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科の全体計画や年間計画にもとづき、行事や日々の教育活動との位置づけを明確にし指導に努める。</li> <li>・道徳科の目標と子どもたちの実態と結びつけながら授業の展開を考える。</li> </ul>	   
	7 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	B					
	8 保護者等への道徳科の授業公開	B					
体力づくり	9 たくまいし心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体でリレー大会や坂リピックなど、体力づくりを推進するための行事を実施できた。熱心に取り組む児童も多いが、運動が苦手な児童でも取り組めるようにしていくことが今後の課題である。</li> <li>・なわとびや鉄棒、ダンスなどは、授業外でも取り組めるように児童に促すことで、休み時間や家庭で練習している様子が見られる。</li> <li>・担任が休み時間に運動場に出て、子どもたちと一緒に外遊びを楽しむ様子が窺える。体育科で取り組んだ学習が休み時間の遊びに繋がるように、楽しさを味わわせる声掛けを意識している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレー大会や運動会、なわとび大会など全校挙げて取り組んでいただく中で自然と楽しく体力づくりができていっているように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の学習の中で、運動の時間を十分確保できるように工夫するとともに、体を動かすことの楽しさ、心地よさを味わわせる。</li> <li>・学校全体で体育的な活動に取り組むことは、学年間の縦の繋がりを作ったり、低学年の子が高学年の姿に憧れを持ってよりよい伝統が受け継がれていくことを感じるため、継続しつつ体力の向上を図る。</li> </ul>	 
	10 体力づくりを推進する運動実践	A					
	11 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B					
指導改善(組織的・計画的)	12 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本小スタンダードを基盤に授業改善を行って、3年目になる。どの教室でも統一した授業スタイルを行うことで安心して学びに向かうことができています。授業がパターン化しないように気を付けながら、継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・校内外での公開授業に参加し、指導力の向上に努めた。自ら学びに他校に足を運んだり、研修などを用いて本校教員に実践紹介している。</li> <li>・退勤時刻を19時に、定時退勤日(18時)を週に1回設定しているが、仕事量が多く、なかなか全員が退勤できていない状況である。校内で業務分担を見直す等、今後への検討課題が残る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが読んで考える、聞いて考える機会を大切にしていってほしい。</li> <li>・現在は視覚的に「見る」ことが多すぎる。</li> <li>・アンケートでは、様々な多様性を見抜くことが大切である。子どもたちは前向きに頑張っているのではないかと。保護者の立場から見ると、また違った評価になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1台のタブレットを活用し、子どもが自分の考えをもったり、議論等を通してその考えを広げたり深めたりする授業を推進する。</li> <li>・ICT機器を使って子どもたちの人間関係や自己有用感を育む実践に取り組む。</li> <li>・仕事の精選、効率化を図り、働き方改革を推進する。</li> </ul>	 
	13 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	A					
	14 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B					
育ちと学びを支える連携							
① 家庭・地域との連携・協働	15 保護者の子育てに対する積極的な支援	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から相談があった時は、一人で抱え込むことなく、学年や担任外の教職員と相談しながら対応している。</li> <li>・懇談会や学習参観などを実施したことで、保護者や地域の方と交流し、子どもたちの学校での様子をお知らせすることができた。</li> <li>・年に4回の避難訓練を計画し、地震、火事、不審者の侵入に対する訓練を実施した。自分の命を守る行動を身につけられるように指導している。</li> <li>・学期初めの身体測定では、養護教諭から健康に関する話題提供をして、子どもたちに啓発している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でも子どもたちの姿をあまり見かけなくなった。</li> <li>・坂本の文化遺産をどう伝えていくか、教材化していけないか、検討していく必要がある。</li> <li>・子どもたちの家庭環境にも注意していかなければならない。外からは見えにくい部分もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域に開かれた学校づくりに努める。</li> <li>・保護者や地域への情報発信ツールとして、本年度から専用アプリ(テトル)の運用を開始したが、まだまだ課題が多いため、運用方法を更に工夫していく。</li> </ul>	   
	16 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	B					
	17 防災教育の推進と安心・安全な学校づくり	B					
② 保幼小中の連携	18 子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5.5交流をより主体的なかかわりができるような実施することで、子どもたちの校種間交流を深めることができた。</li> <li>・日吉学区推進協議会で研究授業を行い、保幼小中高と校種の違う教職員と一緒に研究することで、校種の違いから普段気付かないこと等幅広い視点での意見交換ができた。</li> <li>・校種間の授業公開や合同研修会を実施し、参加することで授業力を磨くことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5.5交流の再開など、コロナの5類移行での緩和を受け、さらなる保幼小中の交流に期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中の発達段階や教育の連続性を意識し、授業研究等を柔軟に行う。</li> <li>・交流活動の内容を吟味し、取り組む。</li> </ul>	
	19 校種間の授業公開や合同研修会	B					
	20 保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	B					
組織的体制の充実							
① 生徒指導体制の充実	21 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・些細なことでも常に学年間や学校全体で情報共有し、生徒指導上の課題の未然防止、早期発見に努めた。事案が発生すれば聞き取りを行い、学年主任や子ども支援コーディネーターに報告・協議してから児童に指導した。</li> <li>・校内で起きた問題の情報共有を迅速に行っている。しかし、予防的な取組を学級で行っていないことが課題である。</li> <li>・保護者の方にも休み時間の見守り活動に協力していただいている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、早期対応、チーム坂本の組織対応をお願いしたい。</li> <li>・毎朝登下校時の声かけや見守りで子どもたちの様子を見てくださっているように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの心得「挨拶」「はきもの」「そうじ」「時間」「人」等、今まで積み上げてきたことを継続、徹底するとともに、どの子も安心して学校生活を送れるような温かい生徒指導・教育相談の組織的体制の継続に努める。</li> <li>・教師のアンテナを高くして、子どもたちの人間関係の不具合を敏感に感じ取り、未然防止、早期発見、早期解決に努める。解決には、組織で対応する。校内だけで難しいときは、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、警察等とも連携を図る。</li> </ul>	  
	22 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	A					
	23 家庭・地域・関係機関との連携による指導	A					
② 特別支援教育の充実	24 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターの声かけで、計画的に個別の指導計画を作成している。保護者とも共有することで、指導に役立てることができている。</li> <li>・子ども発達相談センターや巡回相談等の関係機関と連携し、児童の発達課題を把握することにより、学級づくりや個別支援に生かしている。</li> <li>・専門知識のある教員と情報共有しながら、支援の手立てを考えることができた。その中で個別支援の効果的な方法を探り、実践することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりへのきめ細やかな対応がしっかりとできているように感じる。</li> <li>・今後も継続していただきたい。</li> <li>・個々に応じた支援、指導の充実に期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「坂本小スタンダード」を継続して進めることで、どの子にも分かりやすく取り組みやすい環境を整え、よりきめ細かな指導ができるよう努める。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターが中心となって学級担任と連携を図り、個別の指導計画をもとに個に応じた指導を充実させる。</li> <li>・通常学級の担任も特別支援学級に積極的なかかわりを持ち、学校全体として特別教育の充実を図る。</li> </ul>	  
	25 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A					
	26 関係機関と連携した相談体制の充実	A					
学校満足度	27 児童生徒の学校満足度	B	B	コロナ禍を抜け、より主体的、体験的な活動を取り入れることができ、上記の取組を通して、児童生徒の学校満足度を高めるために努力できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの児童にとっても安心して通える学校づくりに今後も尽力していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、保護者、地域にとって、よりよい学校づくりに努める。</li> </ul>

\* 各校の学校評価書から上記の1~25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価を取り出し、本表にご記入ください。  
\* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。